

[2] 木簡から見える古代の阿波

阿波国府周辺から出土した品々を手がかりにして、奈良・平安時代の役人はどのような生活を送っていたのか、資料から読み取り、知識を深めよう。



古代阿波国府があったところ
(徳島市国府町)



阿波国分寺跡(徳島市国府町)



阿波国分尼寺跡(名西郡石井町)



古代の政治はどのように行われ、役人の生活はどのようなものだったのかな。

阿波国府

奈良・平安時代の阿波国の政治の中心地は、国府という地名や、国府の近くに国分寺や国分尼寺などが建立されたことなどから徳島市国府町周辺であると以前から考えられていました。

律令制度のもとでの地方政治

大化改新(645年)後の白村江の戦い(663年)以降、倭(中央政府)は中国(唐)の律令制、都城制等を急速に導入しました。これにより、地方政治は、中央政府から派遣された国司が行うようになり、その中心となる地域を国府と言いました。国府には政務・儀礼を行う国庁と、各種の実務を行う所や倉庫、工房などが設けられており、中央政府から来た人も、地元阿波国出身の人もいたと考えられます。



観音寺遺跡

観音寺・敷地遺跡

観音寺・敷地遺跡は徳島市国府町にあり、1996(平成8)年以降、道路建設に伴って継続的に発掘調査が行われました。6世紀末から11世紀にわたる大量の遺物が、南北方向と東西方向の2つの河川跡から出土しました。

観音寺・敷地遺跡出土品

出土品は、文書行政に必要な木簡や齋串・人形(祭祀の道具)・農具・工具・紡織具などの木製品、墨書・刻書された土器、硯、銅印、巡方(腰帯具)、鏡や瓦等多種多様にわたります。

これらの出土品には、古代地方官庁を運営する上で必要なものがほとんどそろっており、国府の成り立ちや終わり、政治や役人



観音寺・敷地遺跡出土品



人形



つぼに入った齋串



銅印(「生」の刻印)



刻書土器「井上」



巡方ほか腰帯具



墨書土器「佛殿」

これらの出土品から、古代の政治や役人の生活の様子を知ることができますね。



の生活などを知るために重要であることが分かりました。その学術的価値が高いと認められたことから、2015(平成27)年9月4日に922点が「徳島県観音寺・敷地遺跡出土品」として、重要文化財(考古資料)に指定されました。

観音寺・敷地木簡

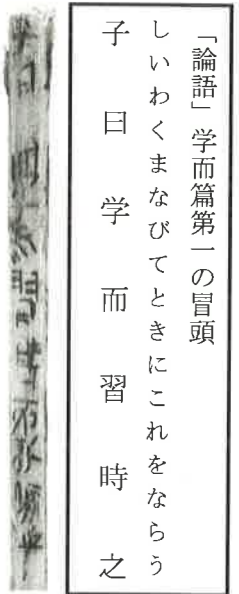
律令制度導入により、地方の役所では戸籍・計帳をはじめとした、公の記録を作成する必要があったので、文字・漢字が使用されました。削ることにより何度も使うことができる、物品に荷札としてつけることから木簡が利用され、観音寺・敷地遺跡では200点を越える多数の木簡が出土しました。

その当時の漢字使用の状況を知ることができるものとして、「論語」の一節に依っている「論語木簡」が出土しています。7世紀中頃の作成と考えられ、「論語」の記述としては日本最古級です。「難波津の歌木簡」は万葉仮名で和歌の手本を写したものです。

戸籍・税制度を知ることができるものとして、「勘籍木簡」や、「棘甲嬴」などの海産物をはじめとした特産物名が記された木簡が出土しています。「勘籍木簡」は、戸籍を確認し本人かどうかを確かめたことが記されたものです。また、阿波国の地名や行政の仕組みを知ることができる「麻殖評木簡」なども出土しています。

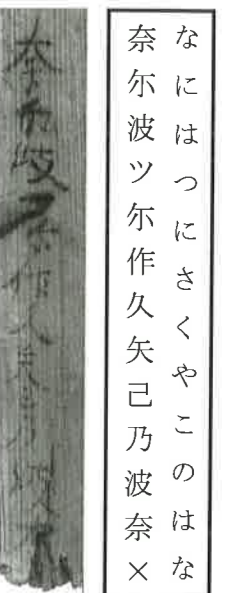
これからの調査・研究によって見えてくるもの

観音寺・敷地遺跡出土品から、これまで知ることのできなかつた古代の阿波国の様子や、行政の仕組み、役人の生活が少しずつ見えてきました。しかし、位置の確定など、国府全体の解明には至っていません。今後の周辺の調査・研究等によって明らかになってくるものがまだ多くあります。



「論語」学而篇第一の冒頭
子曰く、まなびてときにこれをならう
子而習時之

論語木簡



奈良はつにさくやこのはな
ナル波ツ尔作久矢己乃波奈

難波津の歌木簡